



きっと風は吹く 羽ばたけ13名の雄志たち

3月8日(金)、錦中学校第49回卒業証書授与式を挙行し、錦中生30名全員が参加し、13名が錦中学校から巣立っていきました。

コロナを乗り越え、卒業生は「色～みんなで繋げる努力の虹～」の生徒会スローガンのもと、一人ひとりの個性を尊重し、ぬくもりのある温かい雰囲気をつくりだし、錦中生を引っ張っていきました。「小中合同錦体祭」「文化祭」等でみせたりーダーシップはすてきてでした。また、一人ひとりが「自ら学ぶ力」「豊かな人間性」「決めたことは最後までやり抜くたくましさ」「地域を愛する心」を育ててきており、「すてきな大人」へ成長する土台はできあが



りました。特に地域行事へ参画し、まちづくりに中学生が貢献する姿には感心させられました。

式辞の中で卒業生の「明日の元気のために」に次のことを話しました。

卒業生のみなさんへ私が話せるのも今日が最後になります。「感謝」の気持ちを込めて「明日の元気のために」ふたつほど話をさせてもらいます。

ひとつめは大学卒業を間近にした青年の話です。この青年がある企業の就職試験で面接を受けた時、面接官が青年向かってこう尋ねたそうです。「あなたはお風呂で親の背中を流したことがありますか」青年は全く予想もしていなかったこの質問に大変戸惑いながらも「いいえ、一度もありません」と答えました。それに対して面接官は「それでは今日の面接をこれまでとします。家に帰り、親の背中を流してください。明日この続きをします」と面接を打ち切りました。

青年は家に帰り、母親に「背中を流させてくれ」と頼みました。【省略】母親の足の指一本一本、足の甲、足の裏と丁寧に丁寧に洗いました。そうしているうちに、顔を流れる汗は、涙と変わり、顔はくしゃくしゃになり、目は涙でかすんできました。母親の小さくなった足を見つめ、子どもを育てるために昼夜を忘れて働いてきた母親への感謝の気持ちで一杯になったそうです。【省略】

ふたつめ、君たちにある資料を紹介し、餞の言葉とします。

「我慢」と「辛抱」

嫌なことをただ耐え忍ぶのが「我慢」

好きなことのために耐え忍ぶのが「辛抱」

「我慢」の中には不満がある「辛抱」の中には希望がある

「我慢」はいずれ爆発する「辛抱」はいずれ実る

君たちの姿は「我慢なのか」「辛抱なのか」

卒業生のみなさんの姿は、コロナを乗り越え、「辛抱」でした

これからの人生において、「感謝の気持ち」「辛抱」大切にしてください。君たちならできる!!



3月11日に考えるべきこと

2011(平成23)年3月11日「東日本大震災」から今日で13年になります。3月1日(木)に行われた月頭集会で、13年前の3月12日に卒業式を予定していた宮城県気仙沼市立階上(はしかみ)中学校の卒業式での「卒業生代表の言葉」を紹介しました。

「卒業生代表の言葉」

本日は未曾有の大地震の傷も癒えないさなか、私たちのために卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。

ちょうど10日前の3月12日。春を思わせる暖かな日でした。私たちはキラキラ光る日差しの中を希望に胸を膨らませ、通い慣れたこの学舎を57名揃って巣立つはずでした。

前日の11日、一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、10数時間後の卒業式に思いを馳せていた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らずに……。

階上中学校といえば、「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちでした。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というものは、むごすぎるものでした。辛くて、悔しくてたまりません。

時計の針は14時46分を指したままです。でも、時は確実に流されています。生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心をもち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。

私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩のみなさん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものなのかを考え、いとおしんで過ごしてください。先生方、親身のご指導ありがとうございました。先生方がいかに私たちのことを思ってくださっていたか、今になってよく分かります。地域のみなさん、これまで様々な支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

お父さん、お母さん、家族のみなさん、これから私たちが歩いていく姿を見守ってください。必ず、良き社会人になります。

私はこの階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に、本当にありがとうございました。

平成23年3月22日 第64回卒業生代表 梶原 裕太

13年前の階上中学校の3年生は57名でしたが、内5名が津波で亡くなりました。そして、予定より10日遅れて、3月22日に卒業式が行われました。そのときの「卒業生代表の言葉」です。

私たちは誰一人欠けることなく、8日(金)の卒業式を終えることができました。その幸せを感じるとともに、これまで支えてくださった人々への「感謝の気持ち」を忘れてはいけません。そして、どんな困難に直面しても、これからの先のことを考え、「辛抱」していかななくてはなりません。

15歳の春にこのような思いをもった52名の階上中学校の卒業生は、現在28歳、きっと良き社会人、すてきな大人へ成長しています。錦中生もすてきな大人へ成長していきましょう。君たちならできる!